

社団法人私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 4 回 CCC 社会学グループ運営委員会議事録

I. 日 時： 平成 21 年 10 月 30 日(金)午後 4 時～6 時

II. 場 所： 私学会館会議室

III. 出席者： 土屋委員、津田委員、奥村委員

事務局： 井端事務局長、森下主幹

IV. 検討事項

1. 社会学教育における学士力の策定について

前回までの検討を踏まえて社会学教育における学士力の策定を行なった。

各委員の意見は以下の通り

- ・ 測定方法に卒論入れるのはどうか
- ・ そもそも発見する力をどう測定するのかという根源的な問題がある。
- ・ ひらめきがある。それをどう評価するか。自分で問いを発見し解答を見出すのは卒論が適当だと思う。
- ・ 発見についてが通常問題にされていることも含まれる。通常問題とされていることとともに と付け足すとよいのではないか。
- ・ 測定方法、発見のところ、どう考えればよいか。卒業論文が入るというのはスタートでありゴールであるということと合致する。リニアで考えると、卒論がはいるとわかりにくいかも。
- ・ 到達度の測定方法むずかしい。
- ・ 社会学と社会科学との分け方に通じるのかもしれないが、問題発見能力と提言ということから、原因と結果を考える。というのをどっかに入れてもいいのではないか。ゴールでありスタートでもあるという考え方もある。
- ・ 問題を捉えるのにダイナミクスをフォーカスするというのは通常のサイエンスではないからそれをアピールするというのもあり。具体的なイメージ、有機的って何？を入れるとオリジナリティあるのではないか。
- ・ ダイナミクスとは・・・
- ・ ミクロな現象をマクロな構造変動みたいなこととすると、社会学専門でない人に社会学を伝えるのにいいかもしれない。
- ・ 社会の問題に関心をもつというのは良い、社会に関心がない学生が多いので社会問題に関心をもってもらふこと必要。
- ・ 5つの項目、重み、位置づけが立体的。それがダイナミズムにつながる。
- ・ 4などは仮説を立てて検証できることを～より確認するという表現が適切だろうか。
- ・ 具体的な事例と理論、一般的な命題をどうつなぐか、というのが重要ではないか。具体的なものから一般化したり、一般的な話をするために具体的な事例をどう見つけて話す

かというのが授業での勝負になる。具体と抽象を往復する力重要。測定するときにそういうところを気にしてやっている。

- ・ 社会学という学問の経緯を理解するのか。② これは到達度野中に社会現象をどういう切り口で突っ込んでいくのかが読み取れないといけない。発見の始点というのはわかるが、どういう水準で、段階でもつことが重要なのかを明確にしたい。
- ・ 検討に当たってこういう視点で切り込んだことを出したい。
- ・ ジェンダー論については、パブリックコメントで意見を聞きたい。
- ・

2. まとめ

議論の結果以下の（案）を作成した。

社会学学士力案

【到達目標】（発見）

1. 通常は見過ごされている現象を社会的な問題として発見する視点を持つことができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

社会学原論、社会学史、社会問題の社会学、ジェンダー論、社会学研究法、演習等

【到達度】

- ① 社会学がなにを問題として発見し、研究してきたかの蓄積を理解する。
- ② 「あたりまえ」の現実を疑問視し、そこで不可視化されている現象を問題として認識する姿勢を身につける。
- ③ なにが社会問題でありうるのかについての討論を行い、それに関する仮説および研究方法を構築する。

【到達度の測定方法】

- ① 小レポート
- ② ディベート、グループディスカッション
- ③ 卒業論文、卒論報告会、合評会

【到達目標】

2. 社会秩序の形成・維持を可能にする日常の営みについて、基礎的な理論を踏まえて理解できる。

【コアカリキュラムのイメージ】

コミュニケーション論、家族社会学、エスノメソドロジー、差別・逸脱の社会学等

【到達度】

- ① 人間の自我やアイデンティティがコミュニケーションを通じて形成される過程を理解する。
- ② 相互行為やコミュニケーションによる秩序の形成・維持の仕組みを理解する。

- ③ 社会秩序のもつ権力性と、秩序からの逸脱のもつ問題性を解明する。

【測定方法】

- ① 筆記試験
② 論述試験、小レポート

【到達目標】

3. 現代社会の成り立ちと変動を産業化、都市化、情報化といった歴史的な枠組みから捉え、ある社会現象をそれとの関連において理解することができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

歴史社会学、産業社会学、都市社会学、社会変動論、現代社会論、情報化社会論、マス・コミュニケーション論等

【到達度】

- ① 社会の構成要素とその機能の関連を構造的に把握する理論的な枠組みを持つ。
② 現代の社会現象を産業化、都市化、情報化といった歴史的変動のなかで理解する。
③ 「ミクロ」な現象を「マクロ」な構造変動につなげる社会学的想像力を身につける。

【測定方法】

- ① 筆記試験
② 論述試験、小レポート

【到達目標】

4. 社会的な問題に対し、現場の視点に基づいた実証的な調査によってデータを収集し、根拠のある分析をすることができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

社会調査法、社会調査実習、社会統計学、多変量解析

【到達度】

- ① ある社会問題・社会現象について実証的な方法による調査計画を設計できる。
② 量的調査、質的調査についての方法論に基づいた調査・分析能力を身につける。
③ 社会調査の調査倫理を身につけ、フィールドとの適切な関係を作ることができる。

【到達度の測定方法】

- ① 筆記試験
② フィールドワークの企画報告書の作成・提出
③ 調査レポートの作成・提出

【到達目標】

5. 社会の展望についてヴィジョンをもち、社会的な問題の解決に向けて実践的な提言を

行うことができる。

【コアカリキュラムのイメージ】

環境社会学、福祉社会学、国際関係論、社会運動論、公共性の社会学

【到達度】

- ① 理論を理解し、調査・分析を行った結果、問題への解決策を提示する力を持つ。
- ② 社会の現状をもとに、その展望についてのヴィジョンをもち、将来の社会を構想する。
- ③ 研究の成果を学問の世界にとどまらず、提言・発信できる表現方法を身につける。

【到達度の測定方法】

- ① 論述試験
- ② 卒業論文、卒論報告会、合評会